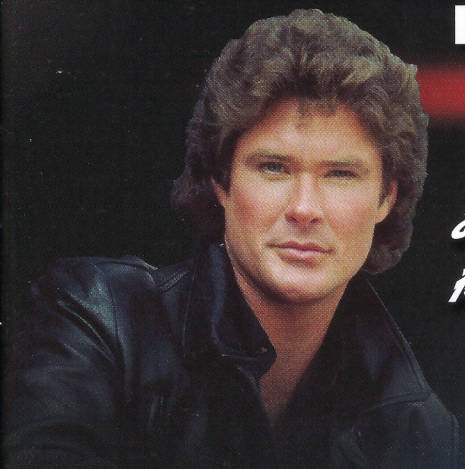
週刊 ナイトライダー

KNIGHT RIDER

KNIGHT 2000 K.I.T.T.



あの光とサウンドも徹底再現した
待望の「ナイト2000」がついに登場!!

1



DeAGOSTINI



週刊 ナイトライダー
KNIGHT RIDER
KNIGHT 2000 K.I.T.T.

CONTENTS

シリーズガイド ―― SG1
『ナイトライダー』の世界　K.I.T.T. ―― 1
ナイトライダー　組み立てガイド ―― 6
STAGE1：ボンネット
極秘情報アーカイブ ―― 10
1980年代のヒーローたち

週刊『ナイトライダー』　第1号

［発行日］2021年6月22日
［発　行］株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0054 東京都中央区勝どき5-2-15 EDGE勝どき
［発行人］谷 健二
［編集人］米岡秀樹
［エディター］山川陽子
［アートディレクション］今福健司
［編集協力］株式会社ファミリーマガジン
［印刷］株式会社大丸グラフィックス
Printed in Japan

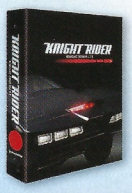
画像著作権
COPYRIGHT :
© 2021 Universal City Studios LLC. All Rights Reserved.
JAPANESE TRANSLATION RIGHT:
© 2021 K.K.DEAGOSTINI JAPAN ALL RIGHTS RESERVED.
※本誌の記事・写真・絵画等を無断で複写(コピー)、転載することを禁じます。

定期購読のご案内

週刊『ナイトライダー』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全110号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、定期購読をお勧めいたします。直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1．お客様受注センターに電話またはファックスで
TEL **0120-300-851**（10:00～18:00 年末年始を除く）
FAX **0120-834-353**（定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付）
2．インターネットで
https://deagostini.jp/kit/（24時間受付）
※PC、スマートフォンからも同じアドレスでアクセスできます。（24時間受付）
3．定期購読申し込み用紙を郵送
「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合はお客様受注センターまでご連絡ください。

●バックナンバー注文のご案内
本誌のバックナンバーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記お客様受注センターまでお問い合わせください。
※最寄りの書店でも定期購読または予約購読をご利用いただけます。
※本誌は号によりパッケージの形態・デザインが異なる場合がございます。



特製バインダー 4号と同時発売！

1冊に本誌を20冊ファイリングできるバインダーを4号と同時に発売いたします。通常価格1冊1,390円（10%税込）を、創刊特別キャンペーンとして、690円（10%税込）で販売いたします（2021年12月末日まで）。お近くの書店または専用ウェブサイトよりお求めください。

本誌の最新情報をCheck！

PCからもスマートフォンからも同じアドレスでアクセスできます。
https://deagostini.jp/kit/

ご登録ください

お買い忘れなく安心！発売日をメールでお知らせします！
発売日お知らせメール♪
https://deagostini.jp/oshirase/kit/

お客様サポートのご案内

●WEB上でも、お客様からのよくある質問と回答を掲載しています。
デアゴ　よくある質問　検索

●メールでのお問合せ
※Webで会員登録が必要です。
https://deagostini.jp/support/mail

●お客様サポートセンター（本誌関連の一般的な質問を承ります）
☎：0570-008-109（月～金10:00～18:00　土日祝日除く）
※間違い電話が大変多くなっております。お電話の際は電話番号をよくお確かめください。
また万一不良品がございましたら、上記の電話までお問い合わせ下さい。

KNIGHT RIDER
KNIGHT 2000 K.I.T.T.
SERIES GUIDE
シリーズガイド

1980年代に放送された『ナイトライダー』は、主人公マイケル・ナイトの乗るドリームカー「ナイト2000」の革新的なデザインと壮大なカーチェイスで人気を博した。主人公とナイト2000に搭載された電子頭脳「K.I.T.T.」のコンビは世界中の視聴者をテレビの前にくぎづけにし、今なお語り草となっている。



【個人情報の取扱いについて】＊注意　お申し込み前に下記規約を必ずお読みください。
ご提供いただく個人情報は、商品の発送、アフターサービス・新商品・サービス等の各種ご案内の提供、各種商品情報やお問い合わせへの回答、および商品開発・サービス改善のためのデータ分析のみに利用します。お客様の個人情報は、弊社と同等以上の管理体制を有している委託先への業務委託、法令等の規定に基づく場合を除き、第三者提供をすることはありません。業務委託のうち、クレジットカード決済に関しましては、決済を行うために、弊社と同等以上の管理体制を有する決済処理サービス会社に提供し、そこでクレジット決済後1ヶ月間、その情報を保管します。個人情報のご提供はお客様の任意ですが、項目に未記入部分がある場合、お申し込みの手続きが取れない場合もあります。個人情報の利用目的の通知、開示・内容の訂正・追加・削除・利用の停止・消去および第三者への提供の停止をご希望される場合は、下記にお問い合わせ願います。
個人情報保護相談受付窓口　（☎03-6730-3793　土日、祝日、年末年始、夏季休暇を除く10:00～18:00）
株式会社デアゴスティーニ・ジャパン　コンプライアンス担当弊社の個人情報、公表事項も併せてご覧ください。
http://deagostini.jp/security/　※公表事項は弊社の事業内容および提供するサービスの変更により改訂されることがあります。

K.I.T.T.

テレビドラマ『ナイトライダー』に熱狂した全世代のファンにとって、ナイト2000、そして、そこに搭載されている電子頭脳「K.I.T.T.」は単なる車ではなく、一つの人格を備えたヒーロー的存在である。



ほとんどのテレビドラマの主人公は、時が過ぎ、流行やスタイルが変わるうちに視聴者からの関心を失い、いつしか消え去る。

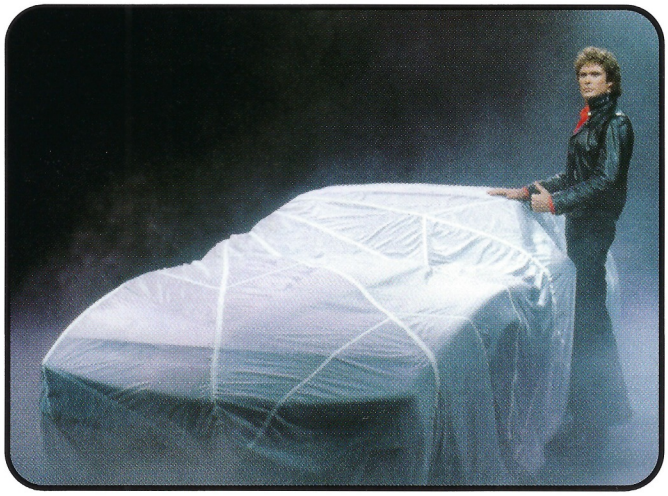
しかし、ナイト2000（愛称はK.I.T.T.（キット））はおそらく、これまでテレビに登場したあらゆる車のなかで、もっとも人気の高い車であり続けた。偉大なワインが熟成されていくように、価値のある車は古くなっても「クラシックカー」として人気を保ち続ける。



1980年代半ば、ナイト2000は未来から来たかのような魅惑的な車として、クラシックカーの先駆となった。

ナイト2000の魅力的かつ革新的な機能は、現実の車にも大きな影響を与えた。自動ナビゲーションシステムやバックアップカメラといった機能が現実の車に搭載されたのは、ナイト2000が登場してから数十年もあとのことである。





『ナイトライダー』の世界

ナイト2000の原型となったスポーツカー

ナイト2000について話すとき、まずはそのデザインのもととなったポンティアック・ファイヤーバードの最上級グレード車である「ポンティアック・トランザム」の第3代トランザム「GTA」を思い起こす必要がある。この、格納式ヘッドライトを搭載したスポーツカータイプの黒の2ドアクーペは、ドラマ『ナイトライダー』の放送が開始された1982（昭和57）年当時の最新モデルであった。

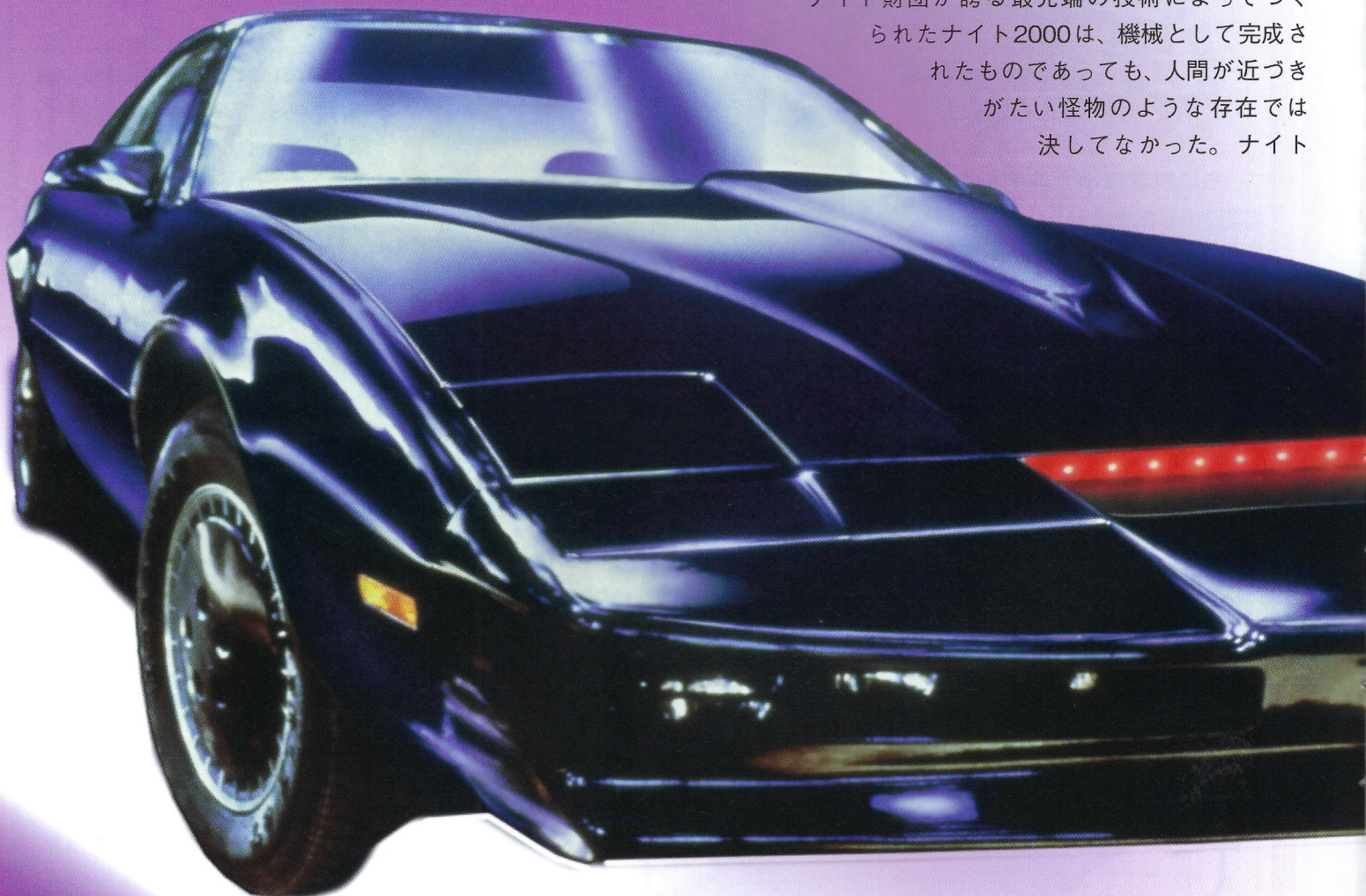
しかし、この車の外観は見る人に明らかな違和感を抱かせた。なぜなら、この車種のシリーズは、ナイト2000に備わった200近い機能を実行するために車体にかかる多くの負担に耐えうる構造になっているようには見えなかったからだ。その車は一見すると、カーチェイスに適したごく普通のスポーツカーのようであった。車をジャンプさせることができる優れたターボブーストや、犬が逃げ去ってしまうような無線攪乱を行う超音

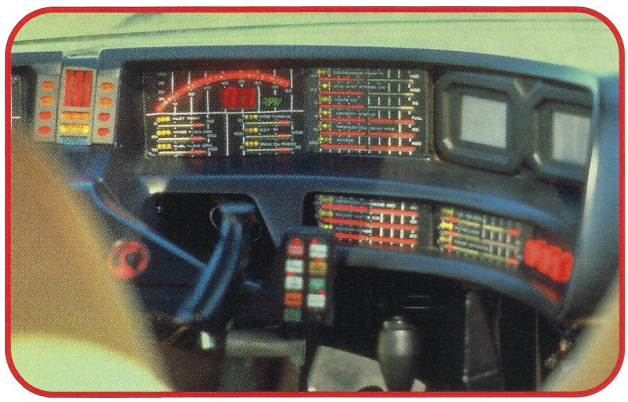


波周波数送信機など、サイエンスフィクション特有の夢の装置が搭載されていることが、その見かけからはとても想像できなかったのである。

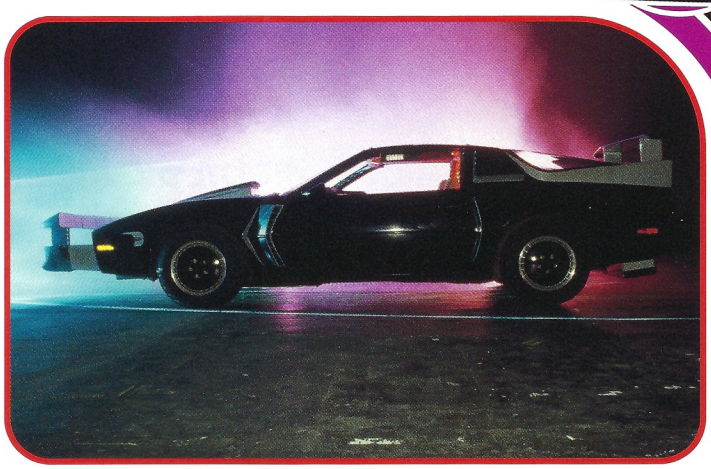
まるで人間のような個性を持つ電子頭脳

ナイト財団が誇る最先端の技術によってつくられたナイト2000は、機械として完成されたものであっても、人間が近づきがたい怪物のような存在では決してなかった。ナイト





ナイト2000のハンドル部分に配置された、ダッシュボードの特殊機能表示部分は、シーズン3から新たに付け加えられたもの。



2000は電子頭脳を装備しているだけでなく、独自の個性も持っていたのだ。やや気難しく、皮肉屋だが、知的で分析力に優れたナイト2000は、主人公マイケル・ナイトの完璧な相棒だった。

電子頭脳を搭載したナイト2000は、シリーズ全体を通して、だんだんとマイケルのオープンで、人間味あふれる性格に影響されていく。秩序や政府のために働くナイト財団の仲間たちとの会話、特にマイケルに対して発せられる皮肉な発言は、ナイト2000の優れた知性を強調している。そして、人々はますますナイト2000のことを、単なる車ではないと感じるようになるのだ。

フロントスキャナーの眠気を催すような赤い光と金属的な声、信じられないジャンプ力は、ナイト2000の大きな魅力だ。さらに、メタリックなパーツときらめくライトが、この車を更に魅惑的な存在にしている。こうした特徴によって、ナイト2000は1980年代にリアルタイムでテレビ番組を見ていた視聴者にとって忘れられない伝説の車となり、のちに続く新しい世代のファンの心をもわしづかみにしている。



ナイト2000のデータ

名前 Knight Industries Two Thousand (K.I.T.T.)

生産年 1982年、ナイト財団の工場で製造

車体の色 黒色

登録名 ナイト

所有者 マイケル・ナイト

所属 ナイト財団

最高スピード 約520km/h

搭載機能 分子的構成車体、電子頭脳、ターボブースト、二輪駆動性、自動運転、フロントスキャナー、赤外線追跡装置、金属フック、ビデオスクリーンなど



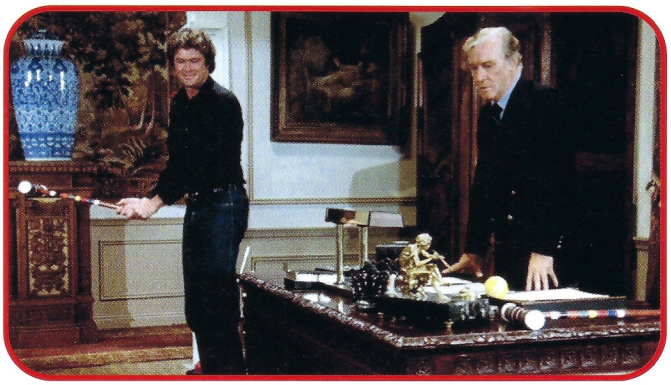
『ナイトライダー』の世界

1980年代は、番組の視聴者をテレビ画面にくぎづけにさせるため、一話完結のエピソードが何十話も続く、大作シリーズものが数多くつくられた時代だった。それらの番組は、テレビ放送後もしばらく人々に影響を与えた。

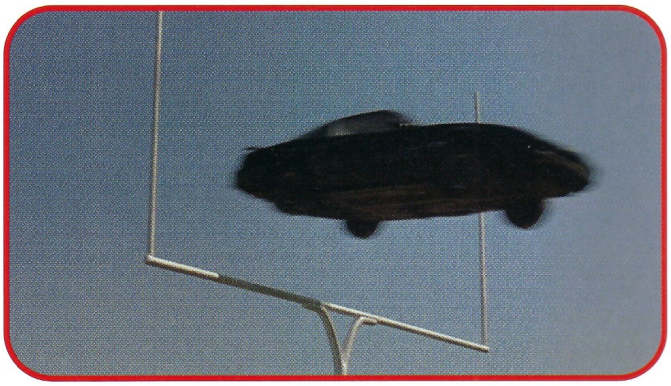
4シリーズ全84話と、長期にわたって人気を博した『ナイトライダー』は、こうした大衆文化における記念碑的な作品の典型例である。



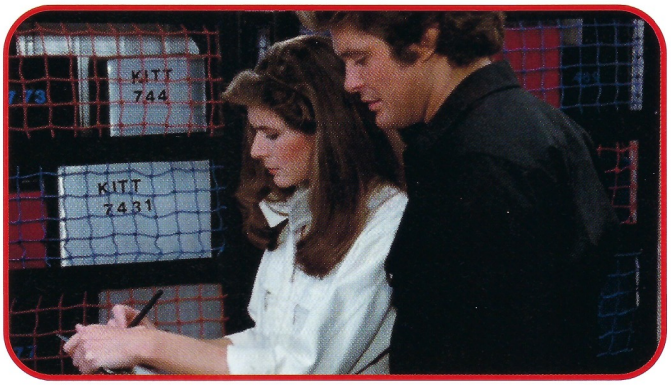
マイケルはナイト2000に初めて乗ったとき、この一見普通の車がしゃべりだしたことに視聴者同様驚いた。しかし、これはほんの始まりに過ぎなかった。



自由奔放な性格のマイケルには、あらゆる点で思慮深い存在が必要だった。ナイト財団の責任者である厳格なデボン・シャイアーとは最初は反発しあっていたが、互いのことを理解しあうにつれて息の合ったコンビになった。



ターボブーストは、ナイト2000のもっとも印象的な特徴の一つである。ナイト2000がターボブーストを発動して目を見張るような高さのジャンプをするたび、マイケルは興奮し叫び声をあげた。



ボニー・バストー（シーズン1・3・4）とエイプリル・カーティス（シーズン2）が、ナイト2000のメカニックを担当した。このシリーズでは、それまでは男性に割り当てられていた役割を女性が担うことが当たり前となっている。



車を走らせながらの冒険

『ナイトライダー』のオープニングでは、不正に満ちた世界に立ち向かうヒーローという魅惑的でクラシカルなテーマとともに、シリーズのストーリーラインが数秒間語られる。今の時代、こうした冒険を重ねる主人公の騎士（ナイト）は、馬ではなく車に乗って、地を駆けるのだ。



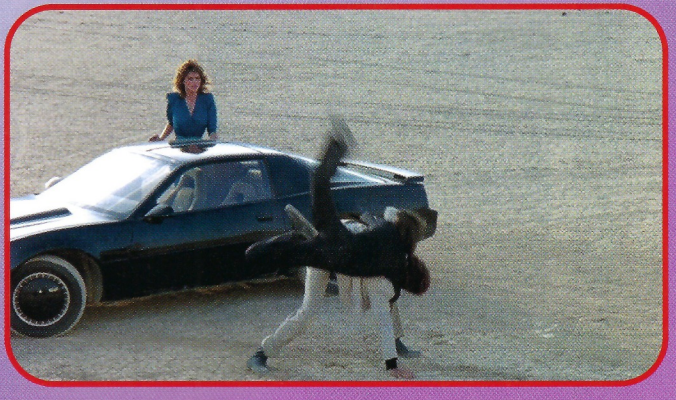
機械との友情

『ナイトライダー』の新しさは人間であるマイケルと、人格が備わったナイト2000という機械がお互いに成長していく過程を視聴者が見つめることにあった。





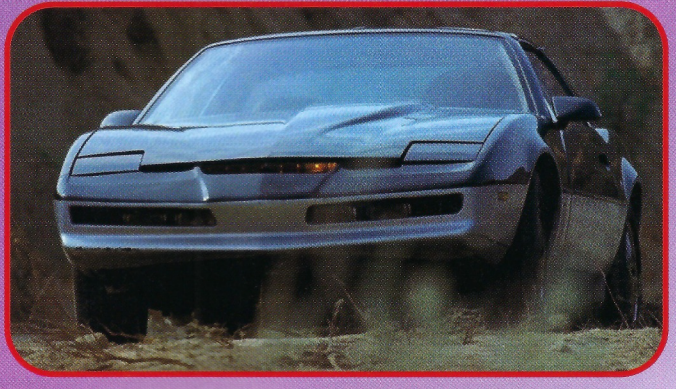
ナイト財団のトラックに入れられて移動するナイト2000の姿はすぐにシリーズのおなじみのシーンとなり、ドラマになくてはならない要素となった。



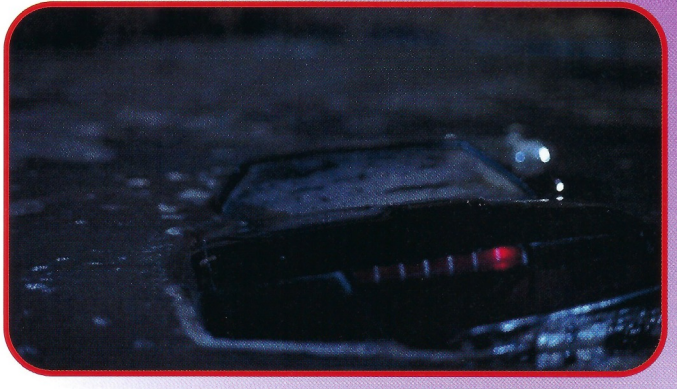
同時期のアクション映画に登場したヒーローたちとは異なり、マイケルは銃器を使用しなかった。平和と正義の勝利をもたらすために素手で戦ったのである。



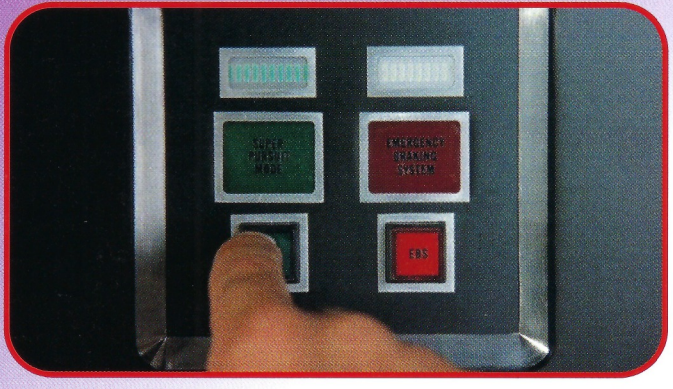
『ナイトライダー』シリーズを通して、マイケルはさまざまな敵に立ち向かった。そのなかでもっとも危険な敵は、マイケルと瓜二つの顔を持つガース・ナイトだっただろう！



悪の存在に立ち向かうのは、マイケルだけではなかった。ナイト2000もまた、K.A.R.R.やゴライアスといった悪の機械と戦わなければならなかったからだ。



シーズン3第13話の「ナイト2000 魔の毒液に溶ける！ 決死の再生・立ち直れキット!!」の回で、ナイト2000は力なくその場に倒れていたマイケルからの救助要請に応えたために壊れてしまう。



ナイト2000のもっとも素晴らしい機能の一つであるスーパー追跡モードは、シーズン4の最初に導入された。

ナイトライダー　組み立てガイド

STAGE1：今号で提供されるのは、ナイト2000のボンネットを構成するパーツ。ボンネットに補強材やエアインテーク、開閉するためのヒンジなどを取りつけていく。



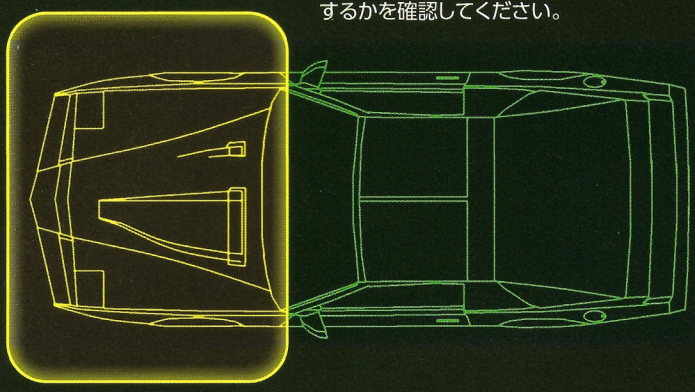
今号の提供パーツ

- 1A ボンネット
- 1B 補強材
- 1C ロックフック
- 1D エアインテーク
- 1E エアインテークグリル
- 1F ヒンジステー1（左）
- 1G ヒンジステー2（左）
- 1H ヒンジプレート（左）
- 1I ボンネットラッチ
- AM AMビス（1.7×3mm）×6本＋予備2本
- AP APビス（1.7×3mm）×5本＋予備2本
- BM BMビス（1.7×3mm）×2本＋予備1本
  ※頭の部分が平らなもの
- CM CMビス（1.5×4mm）×２本＋予備1本
- DM DMビス（1.7×3×5.5mm）×2本＋予備1本
- 1J プラスドライバー（00番）

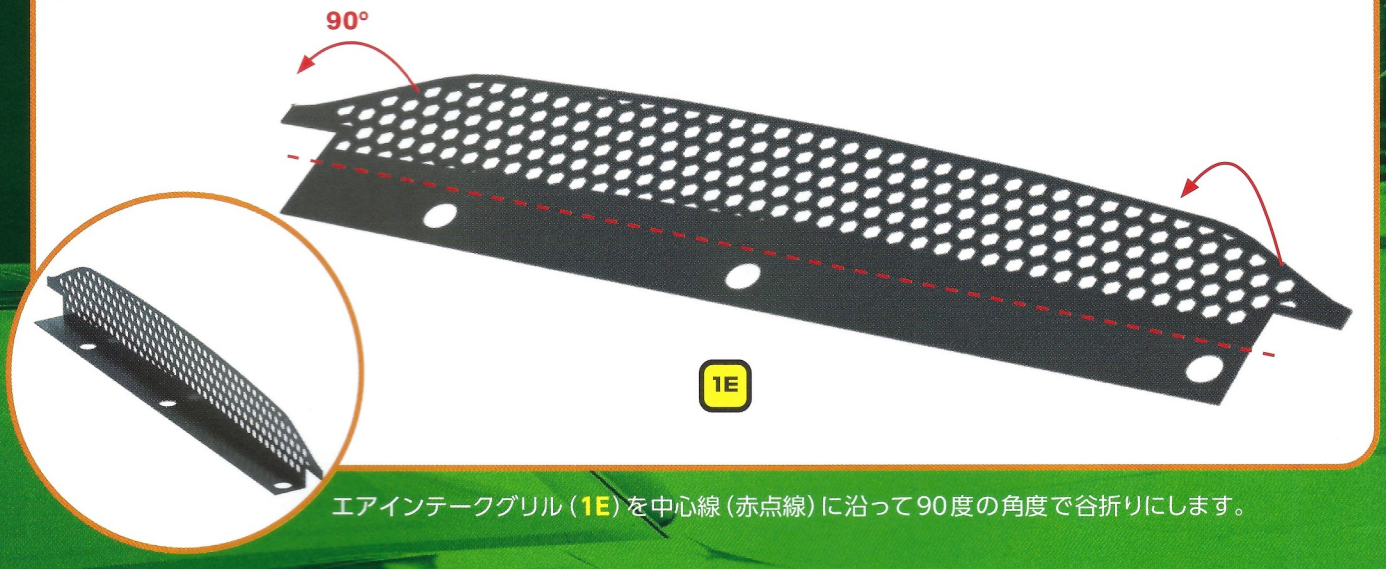
※組み立てる前に、すべてのパーツが揃っていること、それぞれがどの部品を構成するかを確認してください。

組み立てに関する注意：

- ビスは種類ごとに小さな袋に入っており、区別するためにパーツ番号が書かれたラベルが貼られています。
- それぞれ本数を確認して、使用するときは組み立てガイドをよく見て、間違えないように注意してください。
- 予備ビスや、あとの号で提供されるビスの予備は、パーツ番号ごとにまとめて保管します。
- パーツ番号にMがつくビスは金属部品の穴に、Pがつくビスは樹脂部品の穴にビス留めするときに使用します。

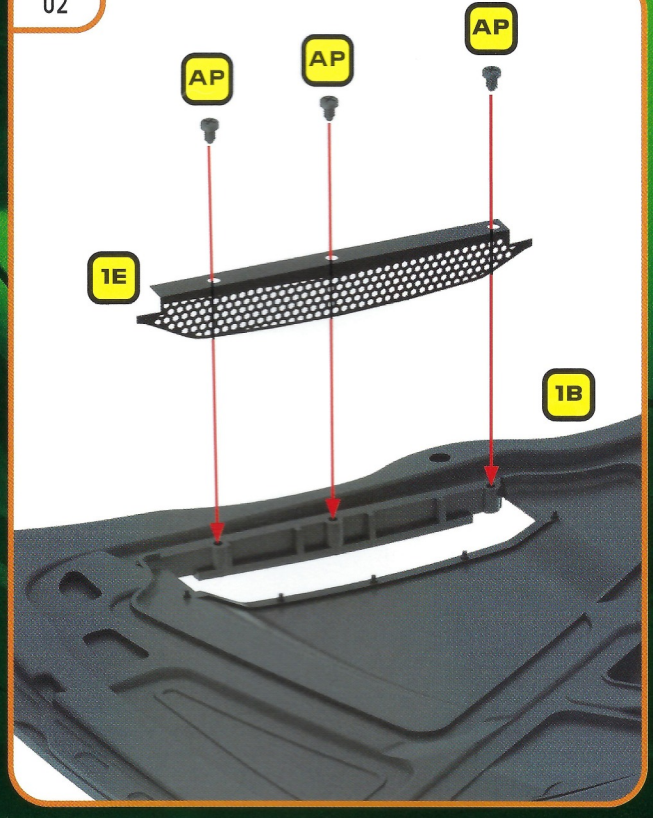


01



エアインテークグリル（**1E**）を中心線（赤点線）に沿って90度の角度で谷折りにします。

02



補強材（**1B**）の開口部に**1E**を差し込み、3本のAPビス（**AP**）で上から固定します。

03



1Bの前面にある長方形の穴の両側に空いている小さな穴に、ボンネットラッチ（**1I**）の2つのピン部分を挿入します。

ナイトライダー　組み立てガイド

04



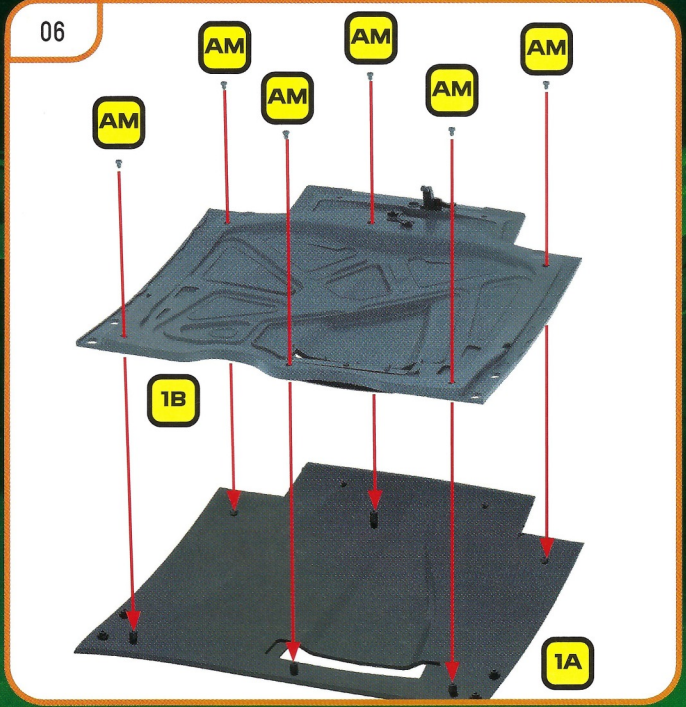
1Bの前側にある2つの丸い穴に、ロックフック（**1C**）の向きを確認して、2つの突起を差し込み、2本の**AP**で固定します。

05



1Eを取りつけた箇所に、エアインテーク（**1D**）をかぶせるように配置し、**1B**の突起を**1D**の両端の穴に差し込みます。

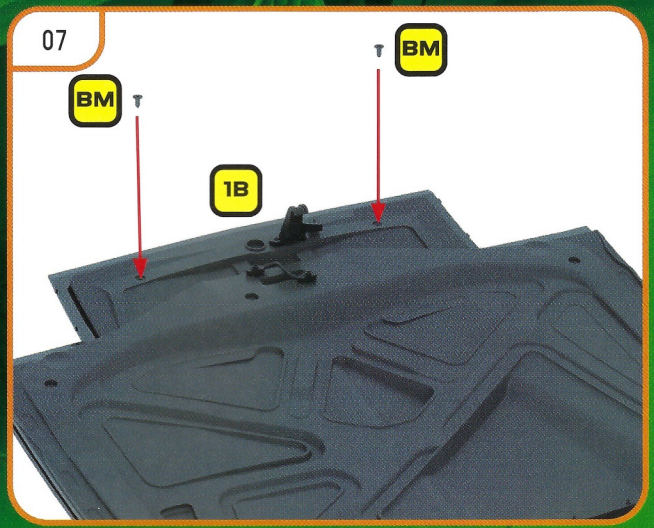
06



ボンネット（**1A**）と**1B**を合わせ、6本のAMビス（**AM**）で固定します。

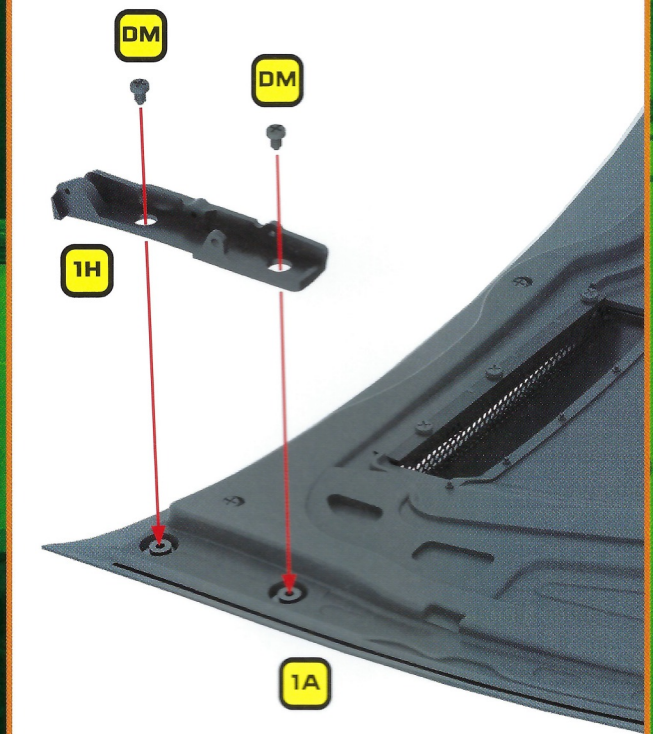
注意：組み立て作業中や保管時に、ボンネットの表側を下にして置く場合は、柔らかい布を敷くなどして、塗装面を傷つけないように注意してください。

07



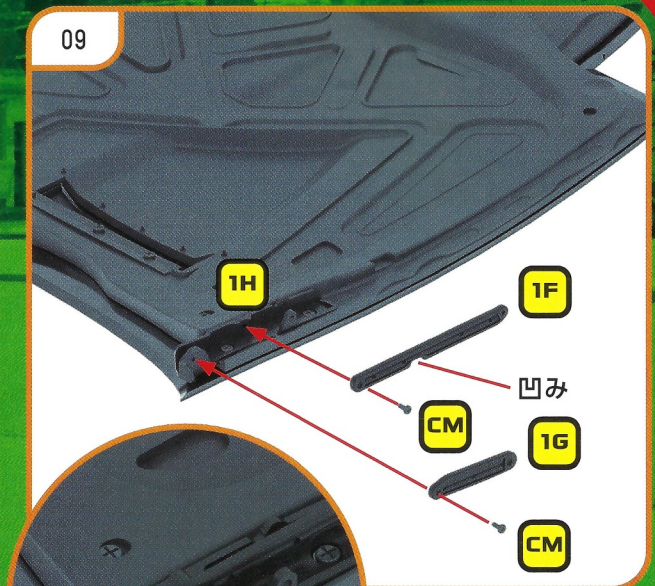
1Bが取りつけられた部分の両側にある2つの穴を、2本のBMビス（**BM**）で固定します。

08



1Aの左後部にある2つの突起と、ヒンジプレート（左）（**1H**）の向きを確認してから2つの穴を合わせて、2本のDMビス（**DM**）で固定します。

09



1Hの奥の中央にある穴に、ヒンジステー1（左）（**1F**）の凹みを左下にして先端の穴を合わせて、1本のCMビス（**CM**）で固定します。ビスの締め加減は、**1F**が渋く動く程度です。さらに、ヒンジステー2（左）（**1G**）の向きを丸囲み写真で確認して、1本の**CM**で**1H**に固定します。ビスの締め加減は、**1G**が渋く動く程度です。

今号はここまで。組み立てたパーツは、傷つけないように大切に保管していてください。

完成図

[1-A]ボンネット



1980年代のヒーローたち



ユニバーサルテレビでグレン・A・ラーソンによって制作された『ナイトライダー』シリーズは、1982（昭和57）年から1986（昭和61）年までに4シーズン全84話が放送された。80年代とその年代のスタイルを象徴するこのテレビシリーズは、世界の多くの国で、世代の違う多くの視聴者の記憶に今なお残っている。

テレビ番組のジャンルが今よりも少なかった時代、この新しいアクションドラマシリーズは大変人気があった。この時代のテレビドラマは単純明快で、助けを求めるヒロインが登場し、悪人は簡単に見分けられた。都会的な主人公は流行のファッションに身を包み、スポーツカーを運転して、自身のパンチで厄介事を解決した。



時代を反映させたキャラクター設定

『ナイトライダー』は美学的な面と同様にプロットの面でも、80年代を強く反映している。マイケル・ロング刑事の新たな人格であるマイケル・ナイト。秩序や政府のために遂行されるミッションをめぐる彼の冒険は、それぞれのエピソードごとに、ファッションや行動、乗り物、あるいは単純でとにかく楽しもうという生き方を、明確なイメージで我々に示してくれる。ラジカセ時代のテクノロジーを豊富に用いているサウンドトラックに加えて、エイプリル・カーティスの時代を先取りしたプリント柄のつなぎ、デボン・シャイアーのショルダージャケット、マイケルの開襟シャツは、ナイト2000（愛称はK.I.T.T.）が時代の象徴であり続けた80年代を印象づけるものになっている。





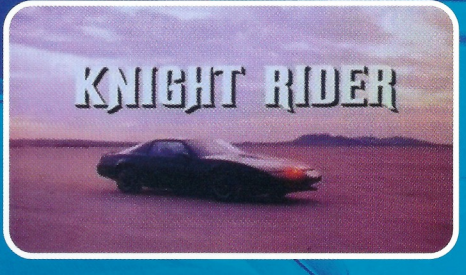
バディものとしては斬新だった「車が相棒」

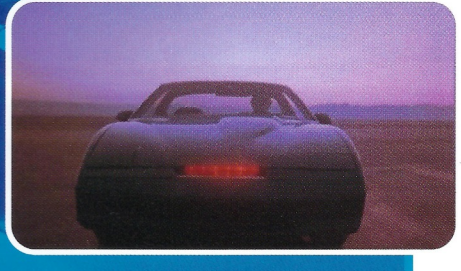
1980年代、「バディもの」あるいは「友情もの」と呼ばれるジャンルの作品がテレビドラマシリーズ化されていった。その分野では、伝統的に二人の男性ヒーローの友情を中心としてメインストーリーが展開し、二人の友人（または同僚）がアクションをベースとする冒険や調査に巻き込まれ、絆を深めていく。こうした表現方法は映像産業において独自分野として確立された。『ナイトライダー』の目新しさは、二人のうちの片方が車だという点にある。1980年代、ユニバーサルは「バディ・シリーズ」と呼ばれるシリーズ作品をいくつか放送し、成功させていた。例えば、主人公のマグナムと彼の住む邸宅の管理人であるヒギンズが登場する『私立探偵マグナム』（1980［昭和55］～1988［昭和63］年）、私立探偵の兄弟リックとA.J.サイモンが主人公の『サイモン&サイモン』（1981［昭和56］～1989［平成元］年）、潜入捜査官のソニー・クロケットとリカルド・タブスが活躍する『特捜刑事マイアミ・バイス』（1984［昭和59］～1989年）などである。

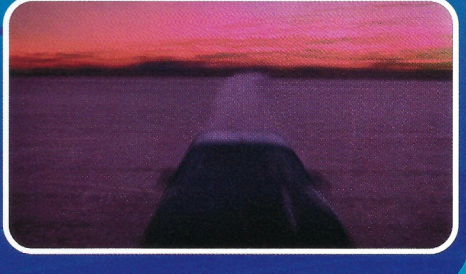
クレジット

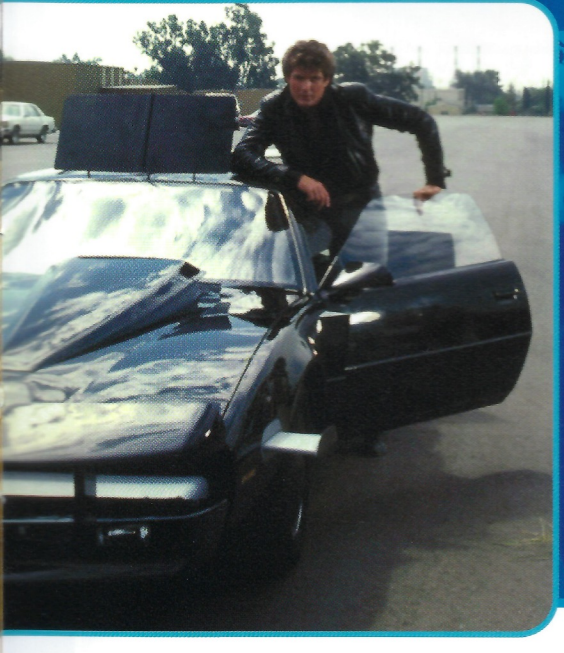
危険な世界での孤独な騎士（ナイト）の活躍

『ナイトライダー』シリーズでは毎回、冒頭で簡単なオープニングクレジットが紹介された。この短い導入は、シリーズ全体の世界観を説明し、視聴者を物語の状況に引き込む役割を果たした。この時代のオーディオ・ビジュアル文化のベースになっていた「正義のヒーロー」の理想像を、最初に結論として要約することなど、めったにないことであった。そのオープニングは、ナイト2000が画面に登場して機械音のホイッスルが鳴ったあと、「ナイトライダー。陰謀と破壊と犯罪の渦巻く現代によみがえる正義の騎士……」のナレーションが流れるというものであった。









クレジット部分の映像は、カリフォルニア州サンバーナディーノ郡のなかにある荒涼としたモハーヴェ砂漠の中心にあるエル・ミラージュ乾燥湖で撮影された。

キャラクターシート

名前

マイケル・ナイト & ナイト2000

最初の登場

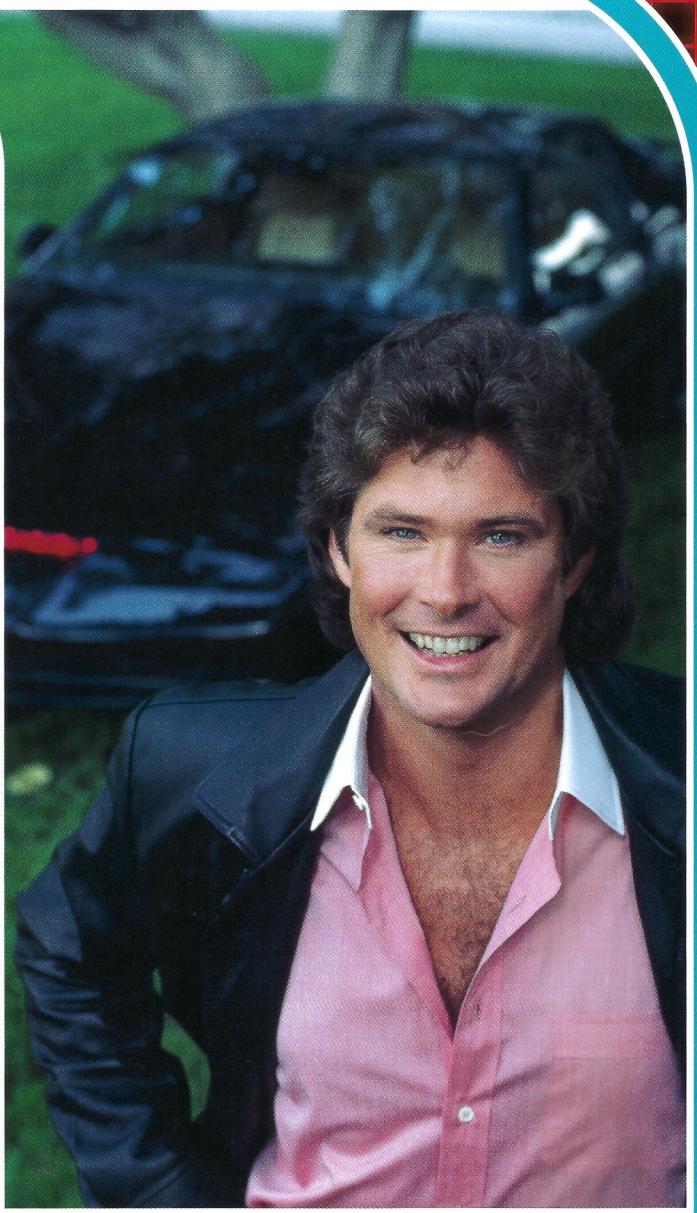
シーズン1のエピソード1

俳優

デビッド・ハッセルホフ
ナイト2000（声：ウィリアム・ダニエルズ）

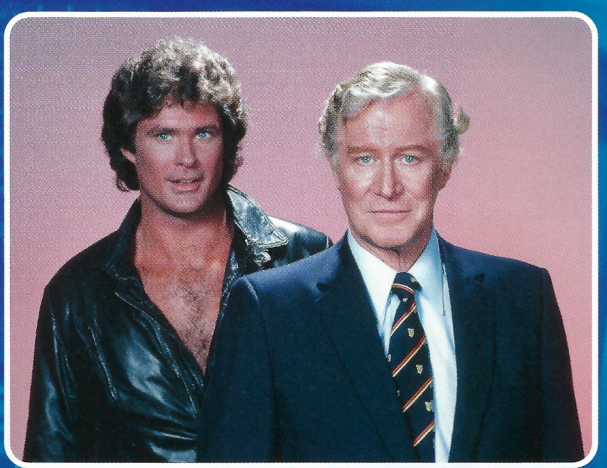
歴史

バディものとしては、二人組の片方が人間で、もう片方がロボットか動物という作品の先例はあったが、車が相棒というのは『ナイトライダー』が初めてだった。だが、マイケルとナイト2000が互いに理解を深め合い、信頼と友情を確立させていったおかげで、この新しいフォーマットの二人組は最初のエピソードからうまく機能した。



もう一つのコンビ

主人公のマイケルとナイト財団の責任者であるデボンは、当初はまったくありえないコンビのように見えたが、シーズンを重ねるうちに、だんだんとまとまりがよくなっていった。紳士的なルックスとマナーを持つデボンは、もともとはクールな軍人であり、いきあたりばったりで軽薄なマイケルとチームを組むことに最初はそれほど熱心ではなかった。





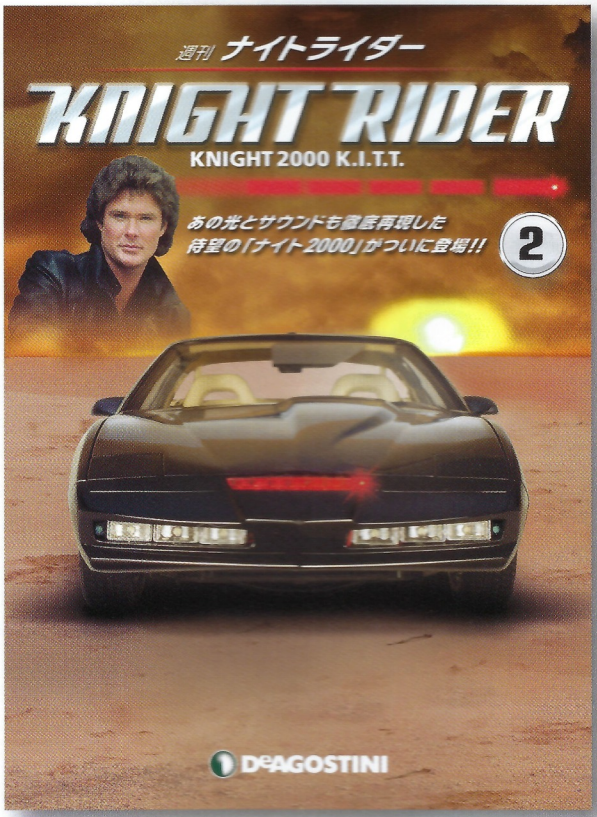
第2号

6月15日(火)発売

価格 1,890円（10%税込）

毎週火曜日発売

※地域によって発売日が異なる場合があります。
※表紙イメージやご提供するパーツは変更になる場合があります。



- 『ナイトライダー』の世界
  デビッド・ハッセルホフ
- ナイトライダー　組み立てガイド
  STAGE2：フロントバンパー
- 極秘情報アーカイブ
  マイケル・ナイト

週刊 ナイトライダー
KNIGHT RIDER
KNIGHT 2000 K.I.T.T.

第2号のパーツ

フロントバンパー

フロントバンパー／スキャナーレンズ／スキャナーハウジング／ライトハウジング（左）×3／ライトレンズ（左）×3／ライトフレーム（左）×3／サポートライト（左）／AMビス（1.7×3mm）×7本+予備2本／APビス（1.7×3mm）×6本+予備2本／GMビス（1.7×4mm）×2本+予備1本





週刊『ナイトライダー』 第1号のパーツ



- 1A ボンネット
- 1B 補強材
- 1C ロックフック
- 1D エアインテーク
- 1E エアインテークグリル
- 1F ヒンジステー1(左)
- 1G ヒンジステー2(左)
- 1H ヒンジプレート(左)
- 1I ボンネットラッチ
- AM AMビス(1.7×3mm)×6本+予備2本
- AP APビス(1.7×3mm)×5本+予備2本
- BM BMビス(1.7×3mm)×2本+予備1本
  ※頭の部分が平らなもの
- CM CMビス(1.5×4mm)×2本+予備1本
- DM DMビス(1.7×3×5.5mm)×2本+予備1本
- 1J プラスドライバー(00番)



UNIVERSAL

Altaya



CE

Visuels non contractuels. Modèles réduits de collection pour adultes de plus de 14 ans. Les miniatures de la collection nvve sont pas des jouets et sont uniquement destinées aux collectionneurs adultes. L'éditeur se réserve le droit d'interrompre la collection en cas de mévente. Conserver l'ensemble des documents pour référence ultérieure. Fabriqué en Chine.

DeAGOSTINI